

## 幻視／残像の風景 村岡貴美男 日本画展

【会期】 12月11日(水)～12月17日(火)  
【会場】 神戸阪急 新館7階 美術画廊  
神戸市中央区小野柄通8-1-8  
☎076(221)4181

### むらおか・きみお

1966年京都府生まれ。95年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業、台東区長賞、サロン・ド・プランタン賞受賞。97年東京藝術大学大学院美術研究科日本画修士課程修了、院展初入選。2000年東京藝術大学大学院博士後期課程(日本画)満期修了。01年有芽の会法務大臣賞。02年院展奨励賞(同03、04、06、08年)。04年院展足立美術館賞。05年春の院展春季展賞(同07、08、10年)、院展日本美術院賞・大観賞(同10年)。06年更生保護表紙絵による作品展。09年春の院展足立美術館賞(同10年)。14年日本美術院同人推挙。個展多数。現在日本美術院同人。



「残像の風景—浮かぶ街」 SM



「残像の風景—夜道」 SM



「残像の風景—ゴルティコ」 SM

日本美術院同人として、日本画壇を牽引するトッププランナーの一人である村岡貴美男。東京藝術大学在学中の節目となる発表で全て首席となるなど、早くからその才能を高く評価されてきた。卒業後も着実にキャリアを積み上げながら、常に注目される作品を発表し続けてきたことは、画家としての底力を物語っているといつてよい。

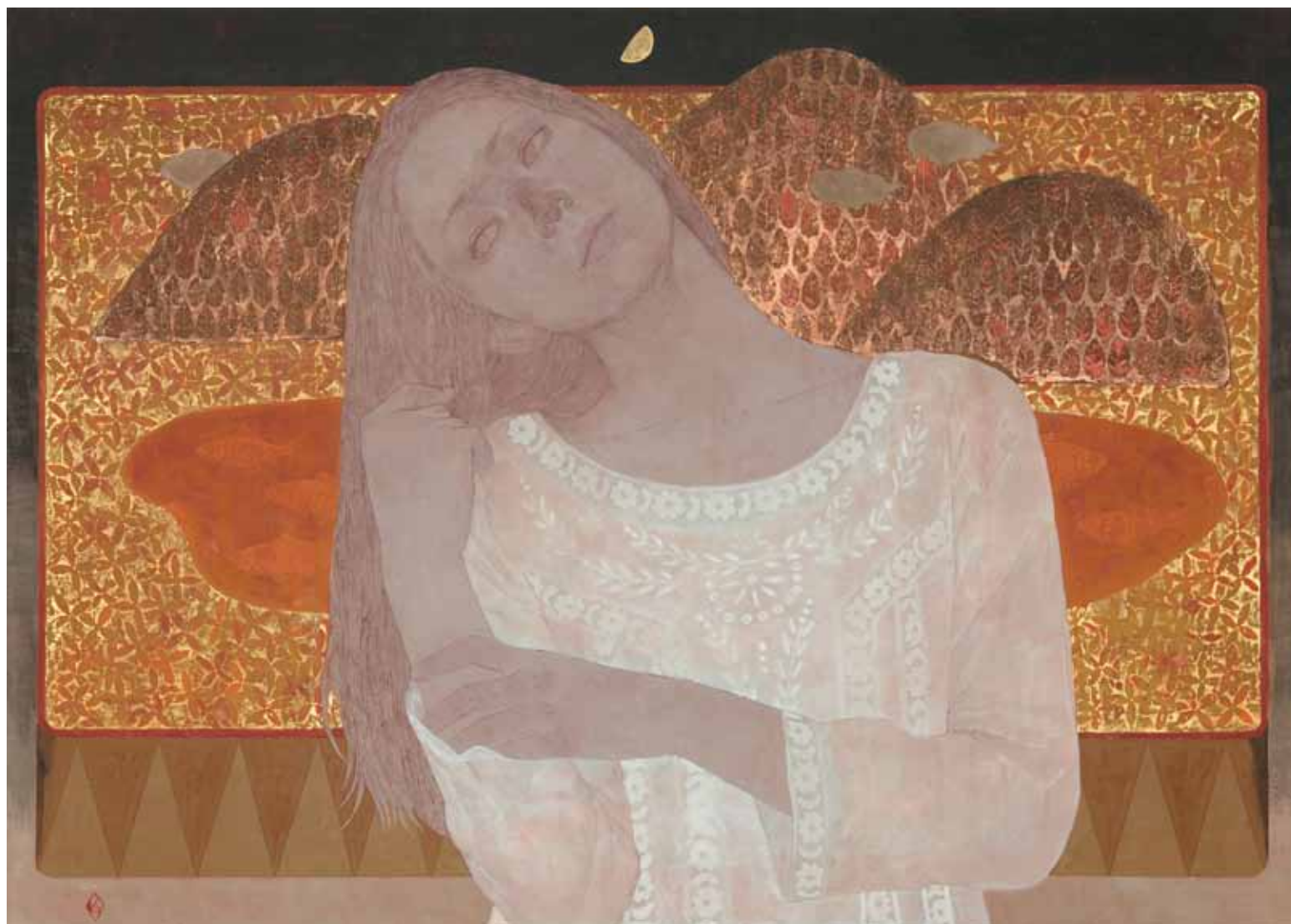
「幻視／残像の風景」と名付けられた今展の図録に掲載される村岡の文章を引用する。

残像の風景は風化による砂のよう  
記憶の蓄積は水による堆積岩のよう  
幻視の世界は熱による変成岩のよう

記憶は常に変化しながら、断片的なイメージや夢想と混じり合う。そうした内面世界を見つめることで発見できる自己もあるだろう。画家の作品から立ち上がる魅力的な詩的世界が、この文章にも表れている。

村岡はイメージの源泉を求めてイタリアやフランスを度々訪れるという。その情景を表現したサムホールの小品が今展では40点以上展覧されるが、このような作品の発表は初めてのことである。また女性をモチーフにした作品や古色を帯びた立体作品も併せて展覧される。古典的でありながら現代性を帯びる両義的な新作群。時間をかけて鑑賞したい展覧会である。

(編集部)



「箱庭」 30号P



「花飾り」 4号F



「フラワードーム」 4号F